



健康一口メモ

仙台市医師会  
広報委員  
只木 行啓

春から秋にかけて、公園を散歩した後やキャンプ、ハイキング、山の中の作業などの後に、腕や肩、下肢に虫が付いて取れない、あるいは急にできものやほくろができて、大きくなってきたなどと訴えて患者さんが来院することがあります。

よく見ると、皮膚に直径数ミリの黒っぽい小豆のようなものが付いていて、皮膚に口をさしこんで、細い足が8本あり、動いているのが見られます。これはマダニが付いているものでマダニ刺症といえます。マダニは何種類かありますが、このあたりで見られるのはほとんどがヤマトマダニです。

マダニは皮膚に付くと、かえしがついた釣り針のような口器を皮膚に刺しこんで、その周囲に唾液腺物質を出し、周囲をセメントで固めたようにして血を吸います。吸血を続けているには数倍の大きさになることもあります。口器の周囲が唾液腺物質でセメントのように固まっているので、むしり取ろうとしても取れません。無理にむしり取ると虫体は取れますが、口器が皮膚に残ってしまいます。口器が残るとそこが赤く腫れて硬い肉芽腫になることがあります。

## 散歩やハイキングの後のマダニ刺症



このような場合は無理に虫を取らず、皮膚科を受診してください。皮膚科では、マダニが付いている周囲に局所麻酔の注射をして、刺入している口器を含めてメスで皮膚を切開し、皮膚を含めて切除して2、3針縫合します。また、すでに虫体を自分で取った場合も、刺し口を観察して口器が残っている場合は、その部分に局所麻酔をして切除、縫合をする事もあります。マダニが病原体を保有している割合は低く非常にまれですが、ウイルスやリケッチア、スピロヘータなどの病原体を保有していることがあります。ウイルスでは、ダニ媒介性脳炎や重症熱性血小板減少症候群、リケッチアでは日本紅斑熱、スピロヘータではライム病などの感染症を起こすことがあります。マダニ刺症は緊急性のない病態ですが、マダニが付着していたら、無理に取ったりせず、皮膚科を受診してください。

「みなみ仙台皮膚科クリニック  
／太白区西中田」

中小企業・小規模事業者のみなさまへ

事業承継のお悩みや疑問、  
お気軽にご相談ください。

[お問い合わせ]

仙台商工会議所 経営支援グループ  
TEL.022-265-8127

